



ネットワークでWork

ブロードバンドにチャレンジ

第2回 ADSLでいくか、FTTHでいくか。それぞれの導入実態

ブロードバンドを導入した企業の例を見ながら、最適な回線選択方法を探ってみよう。

した会社の事例をご紹介します。

ADSL篇 印刷会社A社 バイク便や宅配便の経費を大幅節約

北陸に本社のあるA社が通信環境をADSLにしたのは経費削減が大きな目的だった。最近の印刷原稿はほとんどがデジタルデータである。会社と工場が離れているため、このデータを保存したMOディスクの受け渡しにはバイク便や宅配の翌朝便を使ってきた。バイク便などは一日に何度も送るため、ひと月当りの費用はかなりのものになる。

A社は最初、FTTHの導入も考えたが、最後はブロードバンドの第一歩としてコスト面のメリットが大きいADSLにしほった。いくつかADSL提供会社を調べてNTTの「フレッツADSL」への加入を決める。月額利用料2980円の24M(メガ)プラン。下り速度が最大24Mビット/秒、上り速度が最大1Mビット/秒ということだった。インターネットは使い放題だし、この容量であればデータを送るにも不自由しない。

知っておきたいブロードバンド用語

- ブロードバンド**
広帯域の意味。従来の通信回線より高速・大容量でインターネットに接続する。
- ADSL**
非対称デジタル加入線。一般の電話回線で従来使っていなかった帯域を使ってデータを伝送する技術。DSLはこれらの技術の総称。
- FTTH**
光ファイバーの略。NTTが中心に進める光ファイバーケーブルを使った通信網をいう。現在、100Mbpsの速度のサービスが都市部で利用されている。
- 常時接続**
パソコンとインターネットをつなぐ通信回線が24時間つないだままの状態になっていること。ブロードバンドだと一定の月額料金を払うだけで追加料金がかからないというメリットは大きい。

NTTに電話をすると1週間ほどで工事担当者が来社。ADSL用の回線設置工事を行った(ADSLはアナログ回線を使うので、それまでISDN回線を利用している場合はアナログ回線に戻すか新たにアナログ回線を敷かなければならない)。レンタルで設置したADSLモデムにルーターを接続し、ルーターを設定すると接続終了。

いざ稼動してみると、速度の面ではISDNと比較して思ったほどではないが、それでもかなり良い印象。接続プロバイダーによってかなりの差が出るというので他のプロバイダー

とも契約してみたところ、回線速度はほぼ満足できるレベルになった。導入後はたまにノイズが出ることも

もあったが、これはISDNと平行して使用しているせいかもしれないとのことだ。冷蔵庫やテレビなどの影響も受けやすいそう。

あなたのオフィスはどちら向き?

ADSL
近頃の電話局からだいたい3Km以内にある
安価に!

FTTH
建物に光ファイバーが導入されている
大容量データのやりとりが多くなった
コスト高でもとにかく高速の通信環境が欲しい
CATVやFTTHの導入が難しい

また、モジュラージャックからの電話線はできるかぎり短くした。その分、モデムとパソコンをつなぐLANケーブルが長くなったが、これでもノイズは最小限に防げるといふことだ。少ないコストで大容量のデータを瞬時に送受信できるようにになったA社。配送費を大幅カットで大満足とあったところ

FTTH篇 設計事務所B社 高速回線で建設現場とのコミュニケーションも万全

建築設計事務所では、建物の建設現場との間で、工事の進捗状況の確認や図面のやりとりが欠かせない。工務店がデジカメで撮った現場写真も一度に送れる枚数が限られたり、図面の変更やチェックもしばしばあり、もっと緊密なコミュニケーション手段が必要だった。

ADSLの通信容量に限界を感じていたB社は大容量で高速の送受信を可能にする方法を検討し、光ファイバーを利用するFTTHの導入が浮上した。

そんな頃、たまたま取引先の会社から有線ブロードバンドのFTTHサービス「BROADGATE01」を紹介され、資料を取り寄せた。ネット上でオフィスの場所がサービス対象エリアであることを確認。調査から工事、開通まで早ければ最短2週間と聞いて早速申し込む。

光ファイバーは文字通り「光」で信号を送信するケーブルなので劣化やノイズの影響もない。精密なデー

タをやりとりするには格好の通信手段に思えた。だが、既存の電話回線をそのまま利用できるADSLと違って、FTTHの導入は電話回線はそのままだから始まる。B社のオフィスがあるビルは光ケーブル敷設済みの建物だったため、この手間が省けたのは幸いだった。

導入前は回線が遅かったり、ネットワークが落ちることなどに悩まされ、コスト面でも不満があった。しかし導入によって、これらの多くが解消され、常時ストレスのない状態となった。コスト面でも収獲が大きかった。

業種がら、今後はサテライトオフィスや在宅勤務が当たり前になり、大容量データを送りたいとか、持ち帰り仕事で大きなデータを頻繁にやりとりするとか、あるいは自宅の大容量データに出先や会社などからアクセスするというようなケースが多くなるに違いない。

ブロードバンドの導入によって、職場や仕事のありようも大きく変化していくにちがいない。

(執筆: 広報システム研究所)